

南城市地域公共交通計画（素案）に対するパブリックコメントの結果

南城市地域公共交通計画（素案）に対して、パブリックコメントを実施したところ、市民の皆様から貴重なご意見をお寄せいただきました。お寄せいただいたご意見について、市の考え方を以下のとおり、まとめております。なお、意見内容については、趣旨を損なわないよう要約しております。

1 パブリックコメント実施状況

- (1) 意見募集期間 令和8年2月9日（月）から令和8年2月20日（金）まで
- (2) 意見の件数 7件（1名）
- (3) 提出方法別 電子メール1名

2 内容別意見の件数

1. 計画の概要	1件
2. 地域と公共交通の現状	1件
3. 地域交通の課題	1件
4. 地域交通が目指す姿	1件
5. 施策と実施事業	1件
6. 計画の推進	1件
●その他	1件

3 意見と市の考え方

◆第1章 計画概要

No.	意見(要約)	市の考え方
1	SDGsの「住み続けられるまちづくり」に、子どもが自分の足で地域を知り愛着を育む視点を加えてほしい。経済的理由で移動を制限されず、学びや遊びの場へ自ら向かえる仕組みを明確に位置づけてほしい。	ご意見を踏まえ、交通計画(案)の第1章計画の概要の第3節の冒頭文に盛り込みました。この視点のもと、将来の公共交通の担い手である子どもたちが幼い頃からバスに親しめるよう、教育・福祉部署とも連携しながら、子どもを含む誰もが自分で移動できる環境整備に取り組んでまいります。

◆第2章 地域と公共交通の現状

No.	意見(要約)	市の考え方
1	小中高生の7割以上が送迎というデータの背景には、多子世帯のバス運賃負担感があると考える。「保護者の送迎負担」だけでなく、「子どもの自立移動の機会が失われている」という側面も現状として記述してほしい。	ご意見を踏まえ、現状の課題をより明確にする観点から、交通計画(案)の第3章地域交通の課題において「学生の通学における送迎依存が続いており、保護者の負担軽減のためにも、自立した通学手段への転換が必要」と盛り込みました。 「子どもたちが自立して移動する機会が失われている」というご指摘については、施策3-3のMM教育の推進・充実を通じて、子どもや保護者に現状・課題を伝えながら、自立した移動機会の創出に取り組んでまいります。

◆第3章 地域交通の課題

No.	意見(要約)	市の考え方
1	移動制約者の定義に子ども(児童・生徒)を明確に位置づけ、「大人の送迎負担軽減」と「子どもの自立支援」をセットで掲げ、「子育て世代が住みやすいまち=移動の自由があるまち」というメッセージを打ち出してほしい。	「移動制約者」への子どもの位置づけについては、交通計画(素案)の段階から第3章第5節において小中高生を移動制約者として位置づけています。引き続き、子どもたちの自立した移動を支える施策を推進してまいります。 「子育て世代が住みやすいまち=移動の自

		由があるまち」というメッセージについては、今後の計画推進・広報において参考とします。
--	--	--

◆第4章 公共交通が目指す姿

No.	意見(要約)	市の考え方
1	「子どもたちの笑顔と冒険心が地域と観光客をつなぐ架け橋となる交通」というビジョンを加え、移動を通じた地域への愛着(シチズンシップ)の醸成を目指す姿として位置づけてほしい。	第4章において、「まちのみんなで公共交通を守り、育てていく」「共創による公共交通の利活用」を取組推進の考え方として明示しており、ご意見の趣旨と方向性は一致しています。「移動を通じた地域への愛着(シチズンシップ)の醸成」という視点については、今後の施策展開の中で参考とします。

◆第5章 施策と実施事業

No.	意見(要約)	市の考え方
1	<p>地域住民の幸福度向上と経済活性化のため、以下3点を提案します。</p> <p>① 小学生以上を対象とした「Nバス子どもパスポート(仮称)」による無料化</p> <p>② 観光客の運賃収入を財源とした「観光客からの還元モデル」の構築</p> <p>③ 金・土曜夜間の「ナイトNバス」導入によるナイトタイムエコノミー活性化と飲酒運転撲滅</p> <p>子どもだけでなく、大人もワクワクして利用できる「地域を楽しむ空間」としてのバス活用を検討してもらいたい。</p>	ご提案いただいた具体的な施策については、本計画には位置づけておりませんが、施策3-4「地域との協働による公共交通の維持」において「他分野との共創による公共交通の利活用の推進」として教育・福祉・観光・商業分野との連携を掲げており、今後の施策の具体的な検討の中で参考とします。

◆第6章 計画の推進

No.	意見(要約)	市の考え方
1	(仮称)なんじょう交通まちづくりパートナーシップに子どもを主要プレイヤーとして位置づけ、地域を盛り上げる主役へと変わる	第1章に盛り込んだ「子ども達が自分の足で地域を知り、愛着を育む街」という視点の下、子ども達は公共交通の重要な担い手と考

<p>仕組みについて、以下3点提案します。</p> <p>①「Nバスこども編集部」の創設 ②「観光客への感謝（ありがとう）」の可視化 ③「こどもバスガイド」、「バス停アート」</p> <p>総合学習と連携し、子どもが企画・案内するバスツアー等、自分たちのまちの足を自分たちで守り育てる体験の提供を通じて、当事者意識を育み、子どもが公共交通の担い手となる参加の仕組みを作してほしい。</p>	<p>えています。ご提案いただいた具体的な取組については本計画には位置づけておりませんが、施策3-3「モビリティ・マネジメント教育の充実」、施策3-4「地域との協働による公共交通の維持」における「他分野との共創による公共交通の利活用の推進」の中で、今後の施策の具体的な検討で参考とします。</p>
--	--

●その他（全般）

No.	意見（要約）	市の考え方
1	<p>ICカード（オキカ）データで子どもや大人の流動を可視化し、地域店舗の「子ども応援店」参画やバス車内広告の価値創出につなげてほしい。Nバスを子ども・観光客・地域経済をつなぐハブと捉え直し、無料化や夜間運行への積極的な投資を要望します。私たち市民も、利用促進や環境づくりに全力で協力します。南城市の未来のために、勇気ある一歩をお願いいたします。</p>	<p>モビリティデータの活用については、施策3-2「交通DX・GXの活用」においても掲げており、ご提案の内容は今後の検討の中で参考とします。また、Nバスを子ども・観光客・地域経済をつなぐハブとして捉え直すご提案は、「共創による公共交通の利活用」という本計画の取組推進の考え方と方向性が一致するものです。計画の推進にあたっては、市と地域が一体となって公共交通を通じたまちづくりに取り組んでまいります</p>